



山口としや 通信 第38号

話しに来てみませんか？

心のケアはコロナ禍の今だからこそ、重要視されています。さらに、悩む前に、自分の思いを話すことが大切とされています。そこで、傾聴のプロである精神対話士による「おかりや相談会」を白山市労働会館で開催しています。この相談会では、将来の夢を語る方もおられます。月1回第4月曜日の18時30分からの開催です。相談は無料で、予約が必要です。詳しくは相談会予約専用ダイヤル、090-8397-1669までお問い合わせください。



感染力の強い、デルタ株対策として、マスクをしての一般質問です。

2021年9月議会報告

長引く自粛生活への対応を求める

(質問) マスクを外すことがコロナ感染拡大につながる事が明らかになり、飲食店に時短営業をお願いしている。飲食店などが、業態の変更や業種の変更をする手もあるのではないかと。市として、業種の変更や業態の変更、新たなチャレンジへの補助を。

→ (市長) 国・県において、新分野展開や業態転換などの取り組みに対して補助制度を創設しており、市においてもその上乗せ補助を行う「白山市中小企業等事業再構築支援金」を創設した。県の補助金は今年度の募集を終了したが、国の補助金については申請を受け付けており、今後も商工会議所、商工会と連携をとりながら、事業者への制度の周知をしていきたい。

(質問) 市として、周知だけでなく、もう一步踏み込んだ働きかけができないか。

→ (産業部長) 商工会議所、商工会などに相談状況を含めてもう一步踏み込んで、相談できないか検討していきたい。

(質問) コロナ禍での文化振興のため、昨年12月会議で芸術家バンク制度を提案したが、その進捗状況は。

→ (観光文化スポーツ部長) 芸術家バンクについては市文化協会のホームページの改修が必要と考えており、その中で芸術家の活動紹介が掲載できるように検討していきたい。

(質問) なるべく早くホームページの改修ができないか。

→ (観光文化スポーツ部長) 予算が伴うが、できるだけ早くしたい。

(質問) 獅子吼山頂や綿ヶ滝などの観光拠点にライブカメラを設置しては。

→ (観光文化スポーツ部長) ステイホームしながら観光スポットを鑑賞でき、観光地巡りを味わえることは、余暇の楽しみ方の一つ。現地の取付箇所、コスト面、通信環境状況など課題があり、研究していきたい。

(質問) 綿ヶ滝の階段等の改修にはいると綿ヶ滝を直接見ることができない。ライブカメラが必要では。

→ (観光文化スポーツ部長) 冬から春にかけて一時期綿ヶ滝を鑑賞できないときがある。綿ヶ滝の下流部に展望台などがあるので、そこから見てもらうことを考えている。

(質問) 市所有の芸術作品をデジタル化し、白山市デジタル美術館として公開しては。
→ (観光文化スポーツ部長) 2018年に開設した白山ミュージアムポータルサイトで主な収蔵品を鑑賞できる。また、収蔵品のデジタル美術館としての公開は、市にゆかりのある作家や美術作品の認知度を高め、将来の文化振興につながると期待する。一方、著作権の問題もあり、今後協議していきたい。

(質問) 学校で、マスクを外す場面、給食や体育、音楽の授業や中学校での部活動での感染対策は。



新しい生活様式はしばらく続きます。

→ (教育長) 給食については、換気や手洗い、食事中は向かい合って着席しない、会話はしないなどの感染対策を徹底して実施している。体育での密集する運動や近距離で接触する運動、音楽での合唱や管楽器の演奏は、まん延防止等重点措置が適用されている期間においては控えている。中学校の部活動については、当面の間中止している。

(質問) 部活動の再開の予定は。

→ (教育長) まん延防止等重点措置の解除の時期を考えているが、大会が間近な部については、感染対策しながら再開していきたい。

(質問) 学校で感染者が発生した場合、休校になると思うが、学びの保障のためにはタブレットを使ったオンライン授業が大切では。オンライン授業の現状と今後の見通しは。

→ (教育長) 全ての学校において GIGA(ギガ)端末の家庭での接続テストを行い、持ち帰っての学習支援ソフトを使用したオンライン学習の準備が進んでいる。

非常時にあっても児童・生徒とのコミュニケーションを絶やさず、学びを止めないという観点から、家庭とも連携しながら必要な環境整備や準備を早急に進めている。端末を持ち帰ってのオンラインによる朝の会や健康調べで会話する機会を確保したり、学習課題を配信し自宅学習したりすることができるようになることを目指している。

(質問) オンライン授業開始には、もう少しばかり時間がかかるとの認識でいいか。

→ (教育長) オンラインで先生と子どものコミュニケーションを図っており、ほぼ使える状態になってきている。できればそういった緊急事態にならないことを願っている。

(質問) オンライン授業の充実のため、12月会議にICT(情報通信技術)の専門家を常駐させてはと質問したところ、ICTサポーターの派遣回数を倍にしたいとの答弁だった。しかし、足りていないのが現状ではないか。ICTの専門家の常駐を。

→ (教育長) サポーターの供給に課題があるが、充実させている。先生方の技術力向上とともに負担を軽減し、ICTが効果的に活用されるよう今後も研究していきたい。

(質問) コロナ禍での高齢者の買い物支援の現状と今後の見通しは。

→ (健康福祉部長) 今年2月には食料品や生活雑貨を扱う民間事業者との連絡会を開催し、情報共有した。チラシを使った情報発信を検討していく。

(質問) チラシとはどのようなものか。

→ (健康福祉部長) 各企業の情報をまとめたものを、年内中には出したい。

(質問) 買い物だけでなく生活全般においてお困りの高齢者がいる。生活全般について、民間事業者と連絡会を開催し、生活全般の高齢者向けガイド冊子を作成しては。

→ (健康福祉部長) 民間事業者との協議を重ね、買い物支援のチラシの作成・配布に取り組み、その後研究していきたい。



デルタ株の影響もあり、ワクチン接種が進んでも感染防止対策は続ける必要があります。マスクを外すことはできないようです。これからも市による支援を求めています。

ゼロカーボンシティ、セーフ・コミュニティを問う

(質問) 2021年3月に市として2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることをめざす、ゼロカーボンシティを宣言した。本市の地球温暖化対策地域推進計画に明記してある木質バイオマスエネルギーの活用について、市として主体的に取り組み、生産から供給そして消費までのサイクルをつくっては。

→(市民生活部長) 本市の豊かな森林を生かした再生可能エネルギーの活用は重要な取り組み。市域の84%を占める森林は、木質バイオマスに適した森林資源が豊富にあるため、これらを活用した発電や熱利用などが考えられる。議員提案の木質バイオマスの生産から供給そして消費までのサイクルをつくることは持続可能な森林経営にもつながり、気候変動のほか、エネルギー、持続可能な都市など様々なSDGsの目標の貢献につながることであり、積極的に進めていきたい。

(質問) サイクルをつくるために、事業者を集めての検討会を立ち上げては。

→(市民生活部長) 現在、環境審議会、地球温暖化対策地域協議会をはじめ加賀森林組合や事業者と木質バイオマスの活用や課題について協議している。今年度脱炭素ロードマップを作成し、方針が定まり次第、事業者を集めての検討会の開催を考えていきたい。

(質問) 検討会はいつ頃になるか。

→(市民生活部長) 検討会については来年度以降になると考えている。

(質問) 太陽光発電推進のため、市所有の公共施設の屋根を太陽光発電事業を行っている民間業者に無償貸与しては。

→(市民生活部長) 施設上部に重量物を設置することで積雪荷重による倒壊の危険や地震などの災害による危険が増す既存施設

への太陽光パネルの設置は行わない。また、新たに建築する公共施設については、費用対効果を見ながら再生可能エネルギー設備の設置について検討しており、無償貸与することについても研究していきたい。

(質問) 新設する公共施設の屋根には、太陽光パネルを載せることを前提にしては。

→(市民生活部長) 事業者が初期投資をし、太陽光パネルを設置し、自家消費する方策、第三者モデルを検討したが、メリットが得られなかった。しかし、ゼロカーボンシティ宣言をしたので、屋根をお貸しする方法について、研究していきたい。



セーフ・コミュニティ認証
マーク

(質問) WHO(世界保健機関)が推奨する安全なまちづくりの認証制度として「セーフ・コミュニティ」という制度がある。事件や事故が発生する

原因を官民が連携して分析し、予防策を講じることで安全なまちづくりを目指すもの。また、民間の活動が大切で、市が進めている協働のまちづくりとも関連性がある。世界的には、コロナ対策にもこの制度を使っている。市は安全・安心なまちづくりを目指すとともに、協働のまちづくりを進めており、セーフ・コミュニティ制度と通ずるものがある。世界基準のセーフ・コミュニティ認証を受けては。

→(市民生活部長) この制度は、現在亀岡市など15自治体が認証を受けている。防犯のほか子どもや高齢者の安全対策、防災対策、自殺予防など幅広い分野が含まれていることから、先進自治体の取り組みを研究しながら検討していきたい。

としゃチェック

ゼロカーボンシティ宣言を行った市であれば、環境を考えた施策をもっと積極的に取り組むべきと考えます。また、セーフ・コミュニティについては、認知度は低いですが、大変重要な制度と考えます。ぜひ、市として認証を目指すようになればと考えています。

ペットや障がい者の住みやすい街に

(質問) ペットを自宅で飼われている方が、ペットを連れて避難することが起こるとも限らない。避難施設におけるペット飼育スペースの現状と今後の見通しは。



→(総務部長) 避難施設をどのように使うかを事前に決めておく「2次避難施設利用計画」を施設ごとに作成

ペットとの避難も想定しましょう 設いている。2次避難施設 92 施設のうち 61 施設の計画が作成済みで、ペット飼育スペースを設けてある。今後計画を作成する施設にも設ける予定としている。

(質問) 災害時にペットとともに避難する手引き書として日頃の備えや心構えなどが書いてある、「ペット防災手帳」を作成し、配布しては。

→(総務部長) 災害時、飼い主自身にペットの安全と健康を守っていただく必要がある。また、避難所では共同生活を行うため、普段からのしつけや健康管理が重要となる。その啓発する意味で、議員提案の「ペット防災手帳」を作成・配布することは有効な手段であるので、先進地事例を参考に検討したい。

(質問) 障害のある方の避難の際、身に着けやすく、周囲に手話や筆談などのコミュニケーションが必要であることを伝える手段として、バンダナが利用されている。バンダナの四隅に障害についての記載があり、肩にはおることで周囲に自分の障害を伝える。本市でも障害者支援バンダナを配布しては。

→(市長) 災害時に障害のある方に適切な

支援が届くよう、障害者支援のバンダナの活用は有用。今後先進地事例などを調査研究し、より効果的な方法について検討したい。

(質問) 障害者支援バンダナを障害者施設で作成しては。

→(市長) 障害者施設でバンダナを作成した場合、障害のある方への就労支援となる障害者優先調達の推進にもつながることから、検討したい。

(質問) 内耳に障害のある方が、手術で人工内耳を装着することがある。手術は保険適用だが、装着後必要となる電池交換にかかる費用は保険適用外となっており、個人負担になっている。電池交換費用の補助をしては。

→(市長) 人工内耳用の電池交換の助成については、消耗品の助成を行っていないことから、既に助成を行っている自治体の状況を調査した上で、どのような助成の在り方が適切なのか検討していきたい。

(質問) 日常生活用具給付制度などの福祉サービスを2年に1回は他市町の動向や全国の動向を確認し、見直すルールをつくっては。

→(市長) 毎年、障害のある方の相談会や共生のまちづくり推進協議会の当事者部会などでご意見やご要望を伺いながら、対象品目や対象要件の見直しを行っている。近年では技術の急速な進歩に伴い利便性の高い福祉用具が次々に製品化されている。近隣自治体の給付状況や全国の動向を確認しながら、障害のある方の生活の質の向上のため、毎年適宜見直しを図っていきたい。

(質問) 見直しのルールはつくらないのか。

→(健康福祉部長) ルールをつくることはないが、毎年適宜見直しをしていきたい。

としゃチェック

全国で災害が毎年のように発生しています。いつ本市が災害に見舞われるとも限りません。ペットを連れての避難や障害のある方の避難について、市としてしっかりと対応できるよう提案していきます。

※市政へのご意見、ご要望をお寄せください。
e-mail : toshiya6537@yahoo.co.jp

TEL : 275-0179
FAX : 275-0924